

分散会 1 1

司会者 古田 章
記録者 土井 祥二郎
会場責任者 佐藤 郁子

佐賀市立公民館（佐賀）

コミュニティの創出と支援者育成プログラム

- 佐賀市の概要・・・平成 17 年・19 年に合併（人口 23 万 7 千人）
公民館の運営が佐賀市の完全直営となった。
県立生涯学習センター「アバンセ」と協働して課題解決支援に取り組んだことが事業へのきっかけとなった。
- 支援者育成プログラムの柱と実践
 - ① 持続可能な地域活動の支援 → ファシリテーション研修の実施
 - ② 地域活動の課題を明確にする。
→ 公民館・地域活動アンケートの実施・地域診断プログラムの開発
 - ③ 地域課題に取り組む団体の育成と関係機関とのネットワークの構築
→ 32 館中 16 館と地域課題解決へ取り組む館が増えてきた（嘉瀬町の藍染めからのまちづくり・本庄町の「佐賀子ども劇場」との協働活動など）



【発表者】
鶴 ちふみ 氏 (左)
江頭るり子 氏 (右)

松山市立さくら児童クラブ（愛媛）

放課後児童健全育成事業

- 児童クラブの概要・・・子ども・子育て支援事業へ位置付けられた。
設置箇所が増設されている。
（学校内専用施設以外に余裕教室を活用）
H27 年の入会率は 20.8%だが、増加傾向にある。
民間の児童クラブもある。
- さくら児童クラブの活動例（地域の子どもは地域で育てる）



西予市遊子川公民館（愛媛）

地場産業の育成を通じた地域コミュニティの再生

- 遊子川地域の概要・・・四国山地の山間にある自然豊かな地域。
人口 348 名・高齢化率 55.2%
過疎化により放置林が増加している。
- 地域活性化への取組
 - ① 全住民での組織「遊子川もりあげ隊」の結成
→ 木工所の設立（木工教室の開催）
 - ② 木工文化の普及（仲間づくり・ブランド化・地域内外へのアピール）
 - ③ 経済活性化（ユスモククラブの設営）
→ 生産体制を確立した。地域内外の参加を得るため、販売につながる努力を続けている。
 - ④ 先進地視察（北海道置戸町）や西予市役所の仕事始め式での活動説明
 - ⑤ 映画作り『食堂ゆすかわ（80 分）』
→ いろいろな分野の方の協力を得て、地域を挙げて楽しく映画づくりに取り組んだ。



【発表者】
中井 圭介 氏

発表後の協議

「佐賀市立公民館の活動について」

<質疑応答>

- 「公民館カレーの日」の費用はどこが支出しているのか？（上城戸）
→ 作った人たち（当番制）が出費するが、食事代 200 円により利益が出る状況である。
- 公民館で開催している講座の数と資料の作成は誰がしているのか？（高岸）
→ 講座は公民館によって違うが本庄では月に 3 講座程度実施している。
→ 今回の発表資料についてはパワーポイントの作成等を担当主事 7 名のチームで対応している。
- 地域対象の講座を開催する際の苦労は何か？（古田）
→ 地域の人たちが楽しみながら活動できることを第一にしている。みんなが集まり、地域課題の解決が図れるように公民館が入り口を作る。（鶴）
→ 公民館が地域の課題と捉えていることを課題と考えていない方も多い。公民館の活動を自分の趣味や集いの場と捉えている人が多い。そこで、その中のキーマンをリーダーにして地域の課題に関する活動ができるような配慮をしている。（江頭）

<情報交換>

地域課題診断プログラムについて

- 「課題の見える化」が素晴らしい。公民館主事が各地域の課題を提示できるよう、佐賀のプログラムを活用したい。（佐藤）
- 関係機関と連携したことで、地域診断プログラムで客観的な診断ができる。また、その際にネットワークも構築されている。ただし、データだけでなく人の声にも耳を傾けていきたい。（鶴）
- 愛媛でも大学等との連携を図りながらしたいと考えている。（佐藤）
→ 佐賀も佐賀大学と連携した。（鶴）

地域課題の解決に向けてのネットワークづくりについて

- 「親父の会」OB も公民館と連携している。「親父の会」は敷居が無いことを目指している。公民館でも誰もが参加できる工夫はあるのか。（佐川）
→ 地域課題を全面に出すと、住民が難しいと感じることが懸念される。公民館でも井戸端会議を大事にしたいので、職員が公民館に誰でも入ってこられるような雰囲気を作っている。（鶴）
- 「親父の会」はどんどん入れ替わりがあるので、人数の確保が課題である。（佐川）
- 八幡浜の「親父の会」は公民館を拠点としている。物品の借用など、公民館とのつながりが深まっている。人と人がつながっていくことで、地域課題を解決しようとする素地ができるのではないだろうか。（河野）

「さくら児童クラブの活動」

<質問>

- 「地域の子どもは地域で育てる」をモットーに様々な活動に取り組んでいたが、謝金等の対応はどのようにしているのか。（鶴）
→ ボランティアとしてお願いしているので、少額（交通費程度）のみ渡している。
- 町内会費から活動費（寄付）を得ている状況はどのようにして生まれたのか。（緒方）
→ 松山市全体の取組ではないが、町内会・社会福祉協議会・地区婦人団体連絡協議会等からいただいている。自治会長が運営委員に加わり、児童クラブの現状を理解していることが大きな

要因である。

<情報交換>

もう一つの学校としての機能について

- 普段目にしていない佐賀の子どもは、関わりが薄いように思う。児童クラブで、高学年児童が下学年児童を世話することがすばらしい。(江頭)
- 放課後が危険になっている社会の状態は残念であるが、このように子どもたちが関わって活動していることがうれしい。(河野)
- 「放課後子ども教室」の活動でも支えてくれる人数が少ない現状がある。「親父の会」にもぜひ、声を掛けて児童クラブの運営の手伝いをさせてほしい。(佐川)
 - 校区に公民館・児童館がないので、児童クラブの存在意義が大きい。「親父の会」との連携を図りたい。(谷川)
- 所属しているNPOでも同じように「地域で育てる」という方針をもっている。(延近)

安心・安全の重要性について

- 東日本大震災を機に、児童クラブの安全性を高める必要性を感じている。非常食の準備など、防災対策を充実させている。(谷川)

「遊子川もりあげ隊の活動」

<質問>

- 平成22年に「もりあげ隊」を結成した経緯を教えてください。(緒方)
 - 当時の公民館長が地域の問題を懸念し、住民に提示したことが組織作りにつながった。
- 小学校の閉校が地域に与える影響は、大きいのではないかと。(上城戸)
 - 現在は、閉校に向けて慌ただしくしているので、もっと早く対応を検討しておく必要があった。影響は大きいと思われる。

<情報交換>

限界集落の活性化について

- 遊子川の地域の底力を感じた。(河野)
- 小規模だからこそできることがある。危機感を生かした取組が参考になった。(佐川)
- 子ども主体だけでなく様々な取組があることが参考になった。(延近)
- 地域のコミュニティの力を実感した。今後の「イヌネコの会」の活動も地域の力を活用していきたい。(高岸)

公民館主事の役割について

- 様々な場で公民館主事が活躍しているなど、地域の活性化を図るキーパーソンの存在の大きさを実感した。(江頭)
- 公民館の地域に対する影響力の大きさを感じた。今後も児童クラブの活動に活用していきたい。(谷川)

